

クリスマス・新年のご案内

皆さまクリスマスおめでとうございます！

新しい教会堂でのクリスマスも2年目。今年も共にイエス様のご降誕を喜びましょう♪

12月20日(日) 10時30分～

—クリスマス主日礼拝・祝会—

礼拝の後に食事を持ち寄って祝会を行います！

(食事代 500円) プレゼント交換あり！



12月24日(木) 19時30分～

—燭火礼拝(キャンドルサービス)—

イエスキリストのご降誕を祝い、ろうそくに火を
灯して礼拝を行います。どうぞお越してください！

1月1日(金) 11時～

—元旦礼拝—

新年をみんなで迎えましょう！

新しい一年も教会から始めよう！



グッドデザイン 2015 に選ばれた
教会堂でクリスマスと新年を！

クリスマスエッセイ「ホームレス化する社会—何が必要か、誰が必要か」
牧師 奥田知志

ホームレス支援に限らず、人が人を支援する時に大切なのは「見立て」です。その人が何を困っておられるのかをキッチンと把握しないと支援は自分よがりな「押しつけ」となります。

私たちは、野宿状態にある方が抱えている問題を「ハウスレス問題」と「ホームレス問題」とに分けて認識してきました。つまり「ハウス」と「ホーム」は違うということですが、「ハウス」は「家」に始まる物理的・経済的事柄の象徴です。ですから私たちの支援は、公園での炊き出しから始まり、「家のない人には家を、仕事の無い人には仕事を」を目指し活動してきました。すでに路上から自立した方は二千八百人を超えています。

自立後アパートをお訪ねします。キッチンと整頓された部屋は、野宿を脱することができた喜びを示しています。仕事も決まり一安心。「よかつたですね。また来ます」と部屋を出ようとした時、ひとりポツンと座っておられるその方の姿を見ます。その姿が、野宿時代、駅の通路に段ボールを敷いて座っておられた姿とかぶさって見えませんでした。何が解決できて、何が解決できていないのかが問われました。路上では「畳の上で死にたい」という言葉をよく耳にします。実際、多くの人が路上で亡くなっていきましました。路上で人が死んでいくことは許されぬ事態です。

本人も努力を重ねアパートに入り仕事も決まりました。でも「もうこれで安心」と仰るかというと、今度は「俺の最期は誰が看取ってくれるだろうか」と仰る。そこで問われたのは、ハウスではなくホームの問題でした。すなわち家族や友人といった「ホームと呼べる存在」が必要だと仰ったことでした。自立が孤立で終わるのなら、その支援は失敗です。そうなるのを再び野宿に戻る人も出てきます。だから私たちは、二十七年間「ハウスレス」という経済的困窮と「ホームレス」という社会的孤立を一体的に解決できる仕組みを作ることに専念してきました。現在、地域生活の継続率は九四％を維持しています。

ある野宿の方がこのように仰っていました。「ホームレスになって一番つらかったのは、寒さでもひもじさでもありませんでした。野宿になる前までは、道を歩いていて見知らぬ人でも挨拶してくれました。でも、ホームレスになって道端に座った途端、私の前を毎日何百人もの人が通りすぎていきましました。誰一人として私を見る人も声をかける人もいませんでした。一体私はこの世に存在しているのだろうか」と不安になりました。これが一番つらかったです。

さらに、このようなことがありました。真夜中に中学生がホームレスの男性を襲撃する事件が起きた時のことです。被害を受けた方が私のところに相談に来られました。「怖くて寝られない。昨夜はブロックを投げ込まれた」。大変悲痛な叫びでありました。しかし、その男性はその後「でも、考えてみると夜中の一時二時に街をウロウロしてホームレスを襲っている中学生は、家があっても帰るところがないのではないかと。親はいても誰からも心配されていないのではないかと。そういう奴の気持ちは、俺はホームレスだからわかるけどなあ」と仰ったのです。私は中学生とホームレスは違うと思っていました。中学生は家があり家族がいます。ホームレスには家も家族もありません。まして、襲っている側と襲われている側です。違いは圧倒的だと思っていました。しかし、この親父さんは「家があつて帰るところがない。家族がいても誰にも心配されていないのなら、あの中学生は俺と同じホームレスだ」と言われるのです。あの中学生は確かにハウスレスではありませんが、ホームレスだったのです。

現在、ハウスレス問題である経済的困窮は、大変深刻な事態となつてきています。日本の相対的貧困率は一六％です。六人に一人は貧困ライン以下で生活しています。米国が一七％ですから、ほぼ同じような状態です。一方で「他人と付き合わない率」は、米国が三％に対して日本はその五倍の一五％でした。日本は経済的困窮(ハウスレス)と社会的孤立(ホームレス)が同時並行的に深刻化している国なのです。そのような二つの貧困が同時進行する社会においては、この人には「何が」必要かという問いに答えるだけでは足りません。家が必要、仕事が必要、食べ物が必要であることは当然ですが、同時にこの人には「誰が」必要なのかの問いに答えなければならぬのです。

「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きるものである」(マタイによる福音書)。イエス・キリストの言葉です。パンは必要ですがパンだけではだめなのです。神が語り掛けることば、すなわち「絆」が必要だとイエスはいうのです。なぜならば、人はパンのために働く、あるいは生きるのではなく、人は誰かのために生きるからです。この誰かが私にとってのホームなの

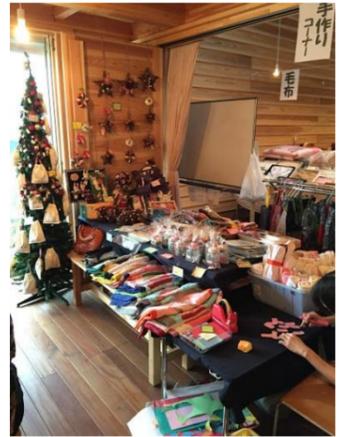
教会バザーへのご協力、ありがとうございました！

昨年新しくなった教会堂でたくさんのお客様をお迎えして、今年も11月23日に恒例の教会バザーを盛況のうちに行うことが出来ました。みなさまのあたたかいご支援と献品をいただきありがとうございました。ご来場くださったみなさまにもここに謹んでお礼申し上げます。今後とも地域に開かれた教会として活動していきたいと思っております。

なお皆様にご協力いただいた収益の中から、次の団体等に寄付をお届けしたいと思います。

- 1、共生地域創造財団（東日本大震災および原発事故被害者支援）
- 2、NPO 法人抱樸（困窮者支援）
- 3、ペシャワール会（アフガニスタンにおける医療活動支援）
- 4、PHD 協会（アジアとの交流支援）
- 5、久山療育園バプテストコロニー・太陽パン（「障害」者支援）
- 6、キリスト教海外医療団（JOCS）
- 7、佐々木さんを支援する会（アフリカ ルワンダにおける和解のプロジェクト）
- 8、東八幡キリスト教会の働きのために（新教会堂建築費用として）

来年も教会バザーを開催しようと思っております。どうか、この働きをおぼえて、お支え下さいますように。献品の品々をポチポチご準備ください。来秋、ご案内チラシが参りましたらどうかよろしくお願ひします。



荒生田塾

2015年の活動ダイジェスト

① 2月28日、3月1日 姜尚中連続講演会

「悪の反対は善ではない。愛である」この時代の悪に対し、正義をかざすのではなく愛をもって、向き合うことができるか！姜尚中さんは、我々に大事な問いを残してくれました。



② 5月16日 一条真也講演会

「ネアンデルタール人が亡くなった人を弔う儀式を発明し、人間は進化した」どんな人間にも死は平等にある。一人の人間の命の尊厳を思い、儀式をもって送り出すことの大事さを一条真也さんに教わりました。



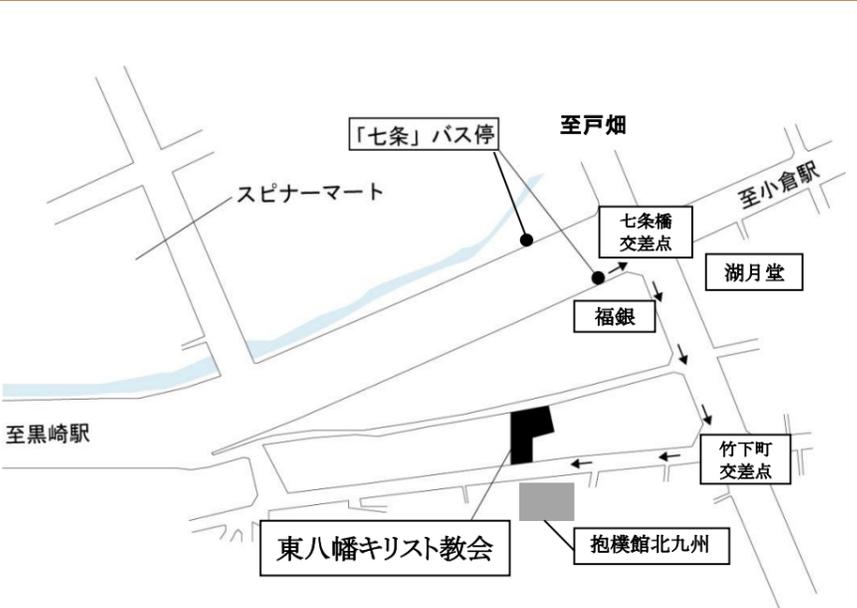
③ 10月10日 山田誠浩朗読会

大ベストセラーのオグ・マンディーノ『十二番目の天使』を元NHKアナウンサーの山田誠浩さんが朗読して下さいました。劇場で映画を見ているような初めての感覚でした。



④ 10月24日 沢知恵ピアノ弾き語りコンサート

「かかわらなければ……枯れ葉一枚、心の泉に落としてくれない」私たちは、自分以外の何かにかかわってきたのか！塔和子さんの詩を沢知恵さんが歌にして残してくれました。



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40
 電話/FAX (093) 651-6669 ホームページ: [東八幡キリスト教会](http://www.higashiyahata.ch)
 Email: higashiyahata.ch.1955@nifty.com
 牧師: 奥田 知志 石橋 誠一
 協働牧師: 藤田 英彦 森松 長生

東八幡キリスト教会が様々なメディアで取り上げられています！

雑誌「Casa BRUTUS (カーサ ブルータス)」12月号「海へ、山へ、街へ！現代建築を見に行こう！」という特集記事の中で、訪れたい「信仰の場」の1つに「軒の教会」が取りあげられました。



「舟の右側」というキリスト教雑誌の10月号にも、5ページにわたって写真入りの取材記事が載っています。

定例集会

- ・主日礼拝(一般の部) 毎週日曜午前10時30分より
- ・子ども礼拝(小学生以下の部) 毎週日曜日午前9時30分
- ・少年少女会(中高生会) 毎週日曜日礼拝後
- ・聖書の学びとお祈りの会
 - 夜の部 毎週水曜日午後7時30分
 - 昼の部 毎月第3水曜日午後1時

牧師へのご相談 随時受付中！

牧師へのご相談を受け付けています。お困りのこと、誰にも相談できないこと、何でもかまいません。一人で悩まずにご相談ください。ともかく一緒に悩みましょう！牧師には守秘義務がありますので安心して相談ください。

電話 093-651-6669